



### 緑道の長さ県下一



富士第一小学校の東側から身延線の潤井川鉄橋までの長さ2,000m、平均幅7.5m、面積約2万平方mを持つ富士緑道は、緑道の規模としては県下一を誇ります。

旧身延線の跡地を昭和52年度から総事業費4億9,000万円をかけて、緑道公園としました。完成したのは、昭和60年です。

梅・桜・アジサイなど、四季折々の豊かな緑に囲まれた緑道は、周辺住民の潤いの空間として、散歩・通学・通勤・親子団らんなどに使われ、街中のオアシスとして親しまれています。

なお、旧豎堀駅跡にある公衆トイレは、老人会の中島笑話会の皆さんが清掃してくれています。



△左から和代さん(丘小5年)、永治さん、幸代さん、照子さん、俊介君(丘小4年)

### 市内一の俊足家族 厚原の桑原さん一家

十月十日行われた「体力つくり富士市民大会」の人気種目は家族対抗リレー。厚原の桑原さん一家は、高学年の部で見事優勝しました。

決勝は、学生時代陸上で鳴らしたアンカーの永治さんが、一気にトップへ躍り出て、ゴールイン。お父さんの威厳を保ちました。家族一同「来年も出場して優勝をねらいます」と意欲満々。



△毎週1回練習を行っている富士市民踊会の皆さん

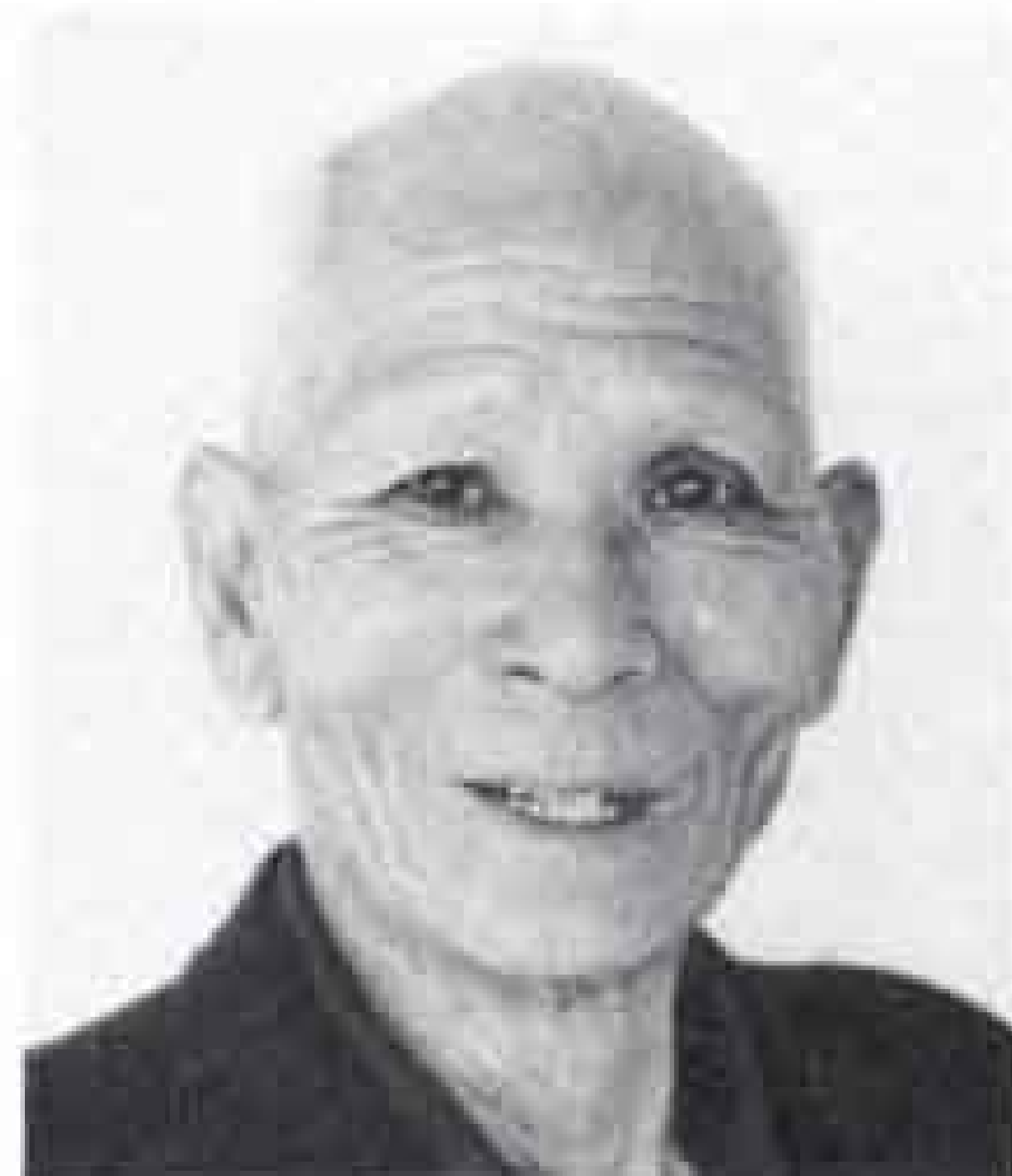
### 富士市民踊会が 踊りで日中友好の輪

富士市民踊会(会長・増田恒子さん)は、日中平和友好条約十周年を記念して、代表十二人が十月二十一日から二十六日まで中国を友好訪問しました。

同会は、これまでもロサンゼルス・シンガポールなどを訪問して国際交流を進めており、今回が七回目。中国では炭坑節や八木節などを披露しました。言葉は通じなくても、音楽と踊りで意気投合し、友好の輪を広げました。

### 東田子の浦駅の 菊花展を主催

富士市の秋の風物詩ともいえる東田子の浦駅の菊花展が、ことしも十一月二十三日まで行われています。色とりどりに咲き誇る菊は約四百鉢。「ふる里の駅を花と緑で飾る会」の皆さん四十人が、丹精を込めて育てたものです。高木市郎さん(中柏原)は、会長を務め、みずからも約八十鉢を育てています。「ことしは天候が不順で生育には気を使いました。でも、菊を見るためだけに下車してくれる人が大勢いることを思うと苦勞も吹っ飛ばね」と語ってくれました。



高木市郎さん



### 心の中を文字で表現

富士詩をつくる会の皆さん

ヘルマンヘッセや島崎藤村のようにはいかなくても、自分の心に映った出来事を素直に表現しているのが、富士詩をつくる会の皆さん。今回は、文字に託した熱い心情が伝わる十月の例会におじゃましました。

富士詩をつくる会は昭和六十一年の一月、教育委員会が主催した詩の入門講座の受講修了生で結成されました。以来、毎月第一木曜日に吉原公民館を会場として活躍しています。

メンバーは約三十人。うち、女性八割です。詩の経験が豊富な人から初心者までいろいろですが、詩を愛する気持ちは同じです。

△熱心な議論が交わされる例会



例会は、各人の作品を朗読し、詩人の高橋喜久晴さんが評するスタイルで行われています。静かな語らいの中にも、文字に託す心情が伝わる、温かい雰囲気の特徴です。昨年「坂道」という処女詩集も発行しました。また、十一月二十八・二十九日には初めての試みとして、「東アジア(韓国・台湾)の詩人を囲む集い」の皆さんを富士市に迎え、交流を行う予定です。

会長の小林清三郎さんは、「詩は感性の文学と